

なにを  
大事にする？

**十人十色、**

**人それぞれに生き方、考え方が異なるという、**

**ごく当たり前のことを大事にする、**

**個を尊重する社会の実現こそが重要。**

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 7 みんなが生きやすい地域

自分の家族の一人ひとりの違いを認め、受け入れる。それができてはじめて、周りの人の違いも認めて受け入れられる。

多様性が認められるなら誰もが窮屈な思いをすることなく伸び伸びと様々な人と交流ができる。さらに個性が集まり、斬新なアイデアが出れば地域の活性化にも繋がる。

国内で多様性に触れ、コンフリクトを解決していくことで、多様性を受け入れる力がつく。

いろいろな  
価値観に  
触れること

差別的な発言をした人を叩くだけでは問題は解決しない。なぜ多様性が重要なのか、なぜ人種差別はいけないのかといったことを大人も子どももきちんと学ぶ機会をつくる必要がある。

多様な国の人々、様々な世代の人々と対話をしていくことが重要だ。どれだけいろいろな価値観に触れられるかが鍵だ。

フェアな社会の実現をビジョンで打ち出してほしい。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 7 みんなが生きやすい地域

大事なのは共感行動ができることで、それがエンパシーである。心の中で何を思っているとしても、そういう行動ができればよい。

いろんな差を一つひとつ埋めていく、手をつないでサポートする、こういう取組をひたすらやっていくしかない。

30年後の2050年にも残る大事な価値は、人間の温かみ。一人になったらどうなるかわからない。でも誰かがいるなら安心。

大事なのは  
共感行動が  
できること

実際に会って交わってみることで、多様性を受け入れる力が養われると思う。自分もOK、あなたもOKという広やかな心が明るい社会をつくっていく。

これからは性別や住む場所等で様々な選択肢が出てくると思うが、どれを選んでもフラットに話せる社会になればいい。

いろんな働き方を生み出し、いろんな場所へ行ける、いろんな生き方ができる、いろんな人といろんな交流ができるようにしないとイケない。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 7 みんなが生きやすい地域

自分の権利だけ主張して、相手のことは知らない、私は私、ではなく、他者をしっかり受容するような気持ちを醸成するところを大事にしてほしい。

やりたいことはできるが、それで他の人に迷惑をかけてはいけない、そのためには、心の余裕があって、人を思いやる気持ちがないと、そうすることができない。

みんなが好きなように選んで、それを誰も咎めることがない社会になればいい。

他者を  
しっかり  
受容する  
気持ちを醸成

国籍、性別、年齢といった具体的な事項だけでなく、日々変化する各個人の考え方、生き方へのこだわりといった抽象的なものを尊重する時代になってきている。

マイノリティと呼ばれる人々の考え方が当たり前になってほしい。そのためには、様々な人と出会い、意見を交わせる環境が必要。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 7 みんなが生きやすい地域

少数派を排除するのではなく、認め合うことで全ての人肯定され、豊かな暮らしができるようになる。

日本は、マイノリティの人たちを目に見えないようにしている。まちが受け入れていない。家庭に閉じ込めて、ケアする人もいなくなってしまう。

いろんな人がいて当たり前の社会が共生社会。排除してきれいにする社会を共生社会とは言わない。

いろんな人が  
いて当たり前  
が共生社会

様々な文化や宗教、背景を持った人が集まって共に生活し、誰もが差別されずに、自由に生き、夢を叶えられる社会であってほしい。

人は、みんな違ってみんないいという考え方が浸透することで個性を認め合える。

今現実自分らしく生きられないことに苦痛を感じている。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 7 みんなが生きやすい地域

あらゆる面においてルールが優先されすぎているような気がする。古いしきたりはなくすべき。

兵庫、神戸ともに開放的と言われながら、実際は保守的で他者を許容しない雰囲気を持っている。

村社会から変わっておらず、県外からの移住者がコミュニティに入って行き難い地域がまだある。

価値観や認識  
の押しつけを  
なくす

固定概念で役割が決められている社会の仕組みを変えていくべき。

自分の価値観や認識の押し付けをなくし、理解を深めることが必要。理解ができなくても受け止めることはできる。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 7 みんなが生きやすい地域

外国人を受け入れる環境がまだまだ脆弱。

多文化に日常的に触れている人ほど、偏った考えを持たなくなるものだ。そのためにも外国企業の誘致や留学生を増やす施策が重要だ。

多文化に  
日常的に  
触れる

移民を受け入れない限り、人口減少は防げない。

海外との賃金差が少なくなってきたので、外国人労働者の処遇を良くしないと、誰も来てくれなくなる。現行制度の改善を望む。

外国人が増えているが、まったく交流がない。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 7 みんなが生きやすい地域

70歳を超えてもシルバー人材センターなどを使って目一杯働こうとする人が増えている。退職して悠々自適なのは一部の上層の雇用者だけだ。

時間を持て余しているシニアが多い。

後期高齢者医療保険料や介護保険料が高いのに、働き口がなかなか見つからない。

## シニアの活躍

定年制をなくして働けるだけ働けるようにすべき。

年金があてにならないので、長く働きたい。

定年後に新たな社会生活を始める人がいる一方で、埋もれていく人もいる。

シニアに活躍してほしいが、受け身の人が多い。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 7 みんなが生きやすい地域

高齢でも働ける場所が必要。また、自分の趣味を見つけて充実させたり、仕事で得た知識や自分の経験を活かして社会への奉仕活動をしたり、後輩を育てたりすることが大事。

自分は健康面でも精神面でもまだまだ頑張れる。世の中の役に立ちたいシニアはたくさんいる。

自分の経験を  
活かして  
次代につなぐ

高齢者は働いて自立するべきだ。このままでは借金で国が破綻する。

若い人の負担を少なくするためにも高齢者が働いて納税する必要がある。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 7 みんなが生きやすい地域

多文化だけではなくて障害者の方も含めていろいろな人たちと一緒にどう暮らしていくかというのは一つの課題だ。

年齢、性別、障害の有無を問うばかりでなく、本当にすべての県民が力を発揮できる状態を作ることが必要だ。

特別支援教育＝特別支援学校ではない。健常者と障害者を分ける発想は間違っている。両者が一緒に学ぶ場を作るのが本当のインクルーシブ教育だ。

すべての県民  
が力を発揮  
できる社会へ

子どもに障害があるとわかった瞬間に、プラス要素は何もない、未来は終わった、と思う人が多い。そう思わないでよくなる社会にしたい。

身体障害者は実は65歳未満では減っていて、増えているのは精神障害者。いわゆる「見えない障害」の人たちにとってのユニバーサルの視点が今後一層重要になる。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 7 みんなが生きやすい地域

「産福連携」を進めてほしい。  
すべての産業とすべての福祉の  
連携だ。そうすれば、もっと社  
会が活性化し、雇用も内需も拡  
大するはず。

産業界と福祉が手を組み、障害  
を持った人が働く形を作ること  
によって新しい価値を生み出せ  
るし、正規雇用や1日8時間と  
いった従来の働き方とは違う世  
界を提示できるようなも思う。

誰にとっても  
不自由のない  
社会

大事なのは、できない人が、い  
かにできるようになるかという  
こと。ICT一辺倒ではなく、ハ  
イブリッドに使いこなすことが  
重要。

誰にとっても不自由のない社会  
が実現できれば、障害という概  
念が消えていく。このことが究  
極の姿ではないか。

障害者が、障害を持っているこ  
とを理由にできることが狭まる  
ことのない環境が整っているの  
が理想。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 7 みんなが生きやすい地域

今のままではこの国で娘を育てられない。それぐらい女性が一人の人間として尊重されない。

旧態依然としたルール=因習を変えないと若い女性は帰ってこない。女性が生き生きと働ける環境という意味では、まず賃金を上げることだ。

法事があると男は酒を飲んで騒いでいるが、女は炊事場で料理してお酒を出す。そんな地域に誰が帰りたと思うか。女性が生き生きと暮らせる地域を作らないと人口減少は止まらない。

女性が  
生き生きと  
暮らせる  
地域へ

男女共同参画が叫ばれて久しいが、そうなるためには本当に思い切った改革が必要。

女性の管理職を増やしても何の解決にもならない。夫婦別姓が普通の社会になってほしい。

性差別が根強く残っており、生きづらさを感じる。男女で役割が違うという意識に囚われている男性が多い。

ジェンダー平等でなければ兵庫県は人口は減るばかり。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 7 みんなが生きやすい地域

みんなが安心していられる環境に性の多様性は必須の要素だ。

開放性の徹底で一番大事なものはLGBTの話だ。ここが進むかどうかで全然未来が違う。当事者の話を一度聞いてみてほしい。

同性でも結婚できるなど、性別に関係なく生きやすい社会は、「誰も取り残さない社会」に必須の要素だ。

性別に  
関係なく  
生きやすい  
社会へ

女性、女性と言い立てること自体が男性視点。性別に関わらず得意なことがきちんと評価される社会に変えることが大切。

言えない裏には性的マイノリティに対する偏見や差別への恐れがある。人知れず苦しい想いをしている人がどれほどたくさんいるか。

今の日本は性的マイノリティであることが、生きづらさや貧困と結びついてしまう社会だ。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 7 みんなが生きやすい地域

100%男かと聞かれたら、実は90%ぐらいかなといったことは誰にでもあることだ。性のあり方をグラデーションで捉える見方が求められている。

自分は男と思うか、女と思うか、恋愛対象として異性が好きか、同性が好きか、あるいはそのどちらでもないといったことは、すべての人に関わることで、SOGIEは誰もが持っている性の要素だ。性の問題は、みんなの問題である。

性のあり方を  
グラデーション  
で捉える

性の問題でも教育が肝だ。いろんな人がいていい、違いがあっていいという教育の中で、性の多様性についても伝えるようにすべきだ。

性に関する偏見を解消するために、学校の授業で積極的に学ぶ機会を与えたり、地域で性的マイノリティへの理解を深めるイベントを開催したり、行政でも工夫をしてほしい。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 7 みんなが生きやすい地域

助けてと声を上げてもいいと思える社会に変える必要がある。

社会では個人化が進んでいるのに、国も自治体も家族を好む政策バイアスがきつい。

SDGsの1日1.25ドル以下の貧困は我々の課題ではないが、シングルマザー、低所得者層などの相対的貧困なら我々の課題だ。

困った時に  
助け合える  
社会へ

未婚率の高さは所得水準の低さや非正規雇用と関係している。格差のような触れにくい問題にどう対処していくかが大きな課題だ。

社会的弱者が一方向的に支援を受けるのではなく、困った時は誰もがお互いに手を差し伸べられ、助け合える社会を構築しなければならない。

人口が減っているのは世の中が不安だから。貧富の差が激しい。弱者の立場から政治をしてほしい。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 7 みんなが生きやすい地域

ユニバーサル社会とは、すべての人が持てる力を発揮できる社会のことだ。

ユニバーサルデザインの理念と現実がかけ離れている。

高齢者、障害者が楽に出かけられる地域をまず作るべき。

制度が届かない人、情報が届かない人、行動に移せない人が山ほどいる。

すべての人が  
持てる力を  
発揮

高齢者世代や障害をもつ方のみならず、誰もがロボットなどのサポート器具を当たり前にする時代をめざしたい。

社会の情報化に取り残される人はこれからもいるだろう。すべての人が過ごしやすい世の中にするためには、手間はかかるが、アナログかデジタルかを選択できる未来になればよい。

3Dプリンタで服が作れるようになり、性別や年齢にとらわれず、ファッションを楽しむ価値観が浸透してほしい。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 7 みんなが生きやすい地域

高齢者などデジタル機器になじみの薄い世代や、使うのが苦手という人のためにも、地域コミュニティなどに頼って互いに助け合うようにする必要がある。

高齢者がデジタル機器を使えないというのは思い込みにすぎなくて、そこにこそ自治体が新しいサービスを作る余地がある。

高齢者など情報通信に不慣れな人でも、使わないとやっていけない社会になる。そのために誰でも使えるツールを開発する必要がある。

デジタルディ  
バイドない  
社会

あらゆる県民がデジタルデバイスなく、情報にアクセスできて、いろんな文化に触れたいときに触れられる、学びたいものも学べる、そういう社会が望ましい。

リアルな機会の提供が大事だとは思いますが、生活に必要な手続きなどはバーチャルで誰もが在宅で利用できるようなになればいい。

子育てに  
大切なことは？

**子育ては一人ではできない。**

**人との関わりが絶対必要。**

**そこは30年経っても変わらない。**

**豊かな人間関係が子育てには必要。**

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 8 安心して子育てできる社会

家族が孤立しているのは確かだが、むしろ家族は孤立しないといけない、自分たちで全部やらないといけないと思いついでいる人が多いのも事実。

少子化を抑制したいのなら、子どもと若い家族への給付が少ない現状を変える必要がある。

教育、子育てへの支出を抜本的に拡充し、家庭の経済力が子どもの育ちに影響する構造を変えない限り、格差の連鎖は続く。

いろいろ支援はあるが、線がつながっていないので結局どれだけ自分で情報を集められるか次第になっている。

教育、子育て  
の優先順位を  
高める

人口対策の施策の効果が見えない。何となく効くのではないかという感じの施策が多いが、本当に意味のある施策かをよく考えることが大事だ。

日本は子育てや教育に振り向けられる税金が少ない国だ。そのベースには、それは家族で賄うものという国民の認識がある。

子育てが外部のサービスを使う世界になっていく中で、その負担をどう下げるかを社会全体で考えないといけない。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 8 安心して子育てできる社会

「結婚したいのにできない」  
「子どもを産みたいのに産めない」などのハードルを取り除くことが行政の大事な役目。

子育ての負担をすべて母親が背負っている。楽しみたいくても楽しめない。

親の責任が重すぎて、子育てを楽しむ余裕がない。子育て世代をおおらかな目で見守ってくれる社会を希望する。

子育ては  
楽しいという  
社会の空気をつくる

いろいろあるけど、やっぱり子育ては楽しいという社会の空気をつくる必要がある。そのためには、大人の態度が変わらないといけない。

親がストレスなく生きられる環境が子どもにもよい影響をもたらす。「余裕」が大事。

若い女性を地域に留めたいと言うが、その背後には「地域に残って子どもを産んでもらわないと困る」という考えがある。その発想がある限り、若い女性は都会に逃げていく。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 8 安心して子育てできる社会

出生対策で経済的な措置をやっても出生増に結び付かない。むしろ近隣市に人が流れている。

子育て施策は消耗戦だが、やらざるを得ない状況。子どもを増やす対策は、国が仕切ってくれた方が自治体間の差が出なくてよい。

社会で子育てしないといけない。子育てのハードルが下がらないと子どもは増えない。家族を経済面だけでなく、気持ちの面でどう支えていくかが大事。

家族を経済面  
だけでなく  
気持ちの面  
でも支える

少子化が問題とされながら状況は変わっていない。子どもは宝。子育てしにくい社会は滅ぶしかない。

家庭に対して教育や生活に関わる経済的支援が十分に行われ、多子を産み育てることに県民が躊躇しなくなっている社会になってほしい。

子育て支援を充実させ、地域全体で子どもを育てていくシステムの構築を進めるべきだ。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 8 安心して子育てできる社会

いまだに男性は仕事、女性は家庭という固定観念が強い。特に男性の育児への参加を強めることが大切だ。

安心して子どもを産み育てながら自分らしく人生も仕事も楽しめる社会が理想。

夫の親を頼りたがらない女性が子育てしながら働き続けられる地域にしていけないといけない。

自分らしく  
人生も仕事も  
楽しめる社会

子どもを安心して育てられ、お母さんが元気で、女性が輝いている地域が、健康で元気な地域だと思う。

保育園に子どもを入れてまで働かなければちょっと余裕のある生活が送れない世の中だ。

自分一人で抱え込むことなく、必要に応じてサポートを受けられる子育てのしやすい社会、それによって子どもたちが伸び伸び輝くことのできる社会になっていけばいい。

在宅勤務できる仕事は在宅勤務にシフト。これにより子どもと過ごす時間を作りやすくなる。

妊婦や子育て世代を大事にしてくれる職場環境を整えてほしい。

育休よりも時短勤務を普及させて、継続して子どもと関われるような環境整備をしてほしい。

働く大人が  
子育てを優先  
することが  
当たり前

多様な働き方が広がって、安心の子育てを牽引する地域になってほしい。

男女関係なく、希望すれば必ず育休が取得できる環境、様々な働き方が認められる環境になってほしい。

働く大人が子育てを優先するのが当たり前と思える社会にならないといけない。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 8 安心して子育てできる社会

子どもたちが走り回る姿は地域を元気にしてくれる。でも、子育てには相当な労力がかかる。だからこそ、じいじやばあば、地域の支えが必要。

お母さんの責任をちょっと軽くしてくれる場がもっとあったらよいのに。

何かあっても信頼関係の中で対応できるような関係が必要で、少人数で良いので、そういうつながりを持つことがまず大事。

お母さんの  
責任を軽く  
してくれる  
場があれば

在宅で子育てしているお母さんにも自分の時間が絶対必要。後ろめたさを感じて言い出さない人もいるが、リフレッシュは必要だ。

地域の企業や団体なども関わりながら、巻き込みながら子育てをしていくという視点が大事。

子育て世帯だけをターゲットにしても子育ての課題は解決しない。親になる前の世代やシニア世代の理解を深める取組も大切だ。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 8 安心して子育てできる社会

登下校時間に大人が声掛けをするなど、地域ぐるみで子どもの見守りを進めたい。

親たちはポジティブな意味で早く白旗を挙げた方がいい。どうせ自分たちだけで子育てをやりきれない。もっと周りに頼っていい。

いつも遠慮しなきゃいけない社会ではなく、地域の人々の温かい言葉や支えに「ありがとう」と言って頼りながら子育てできる社会でありたい。

地域ぐるみで  
子どもを  
見守る

人類学や生物学の観点からすると、共同保育的な家族の在り方こそ普遍的。近代の核家族的なあり方の方に無理があったということに世の中が気づき始めた。

地域の人同士で「夕食のお裾分け」「保育園の送迎」「公園に連れて行く」など、細かい内容ごとに支援を申し出ることができるサービスがあれば良い。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 8 安心して子育てできる社会

身近に遊び場があっても整備がされていなかったり、古かったりで、使いにくい。

子どもの目線で地域の環境を見る必要がある。

次世代の青少年のために遊び場を確保する必要がある。

歩いて5分で海に入れるのに、学校も親も海に入ってはいけないと言うので、海に入ったことのない子どもがいる。これではまずいと自然体験活動を始めた。

子どもたちを  
安全・安心に  
遊ばせたい

子どもが安心して外遊びができる環境づくりが大事。

子どもが周りを気にすることなく外で遊ぶことができ、子どもが外で遊んでいても親が不安に思うことのない社会が望ましい。

小さな子どもが安心して外で遊べ、お年寄りも憩いの場として利用でき、小中学生も伸び伸びと遊べる環境をつくりたい。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 8 安心して子育てできる社会

育休中にママが楽しめる場所が行政サービスではあまりなかった。

子育てで悩む親のために、気軽に相談できる役場以外の場所づくりが必要だ。

地域の中に  
子育ての  
交流拠点が  
ある

子どもが通っている園や学校とは違う場で、お母さん同士がフラットに話せる場が求められている。

母親同士の交流の中から、自分ももう一人育ててみようと思う人も多い。地域の中に子育て系の交流拠点があることは大きな意味がある。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 8 安心して子育てできる社会

多様な愛や家族の形が当たり前  
に認められる社会になってほし  
い。その代表県として兵庫県が  
日本全国のみならず世界にも発  
信できるようになってほしい。

婚外子や養子縁組など様々な形  
で子どもを持てる環境にしてい  
くために、偏見や差別をなくす  
活動を進める必要がある。

一人親、貧困、不登校、発達障  
害の陰に隠れているつらい親子  
がいっぱいいる。支援を必要と  
している子は見えている以上に  
多い。

どんな家族の  
形でも  
排除されない

いろんな形の家族があってよい。  
どんな家族の形であっても排除  
されないということが大事だ。

核家族を理想とする戦後の家族  
政策が今日に至るまでそのまま  
行われており、実際の若者の多  
様なライフスタイルとうまくか  
み合っていない。

出生率の上昇が大目標なら、や  
るべきことははっきりしている。  
結婚の多様化を進め、アフター  
マティブアクションも入れて、  
女性の意見が様々なところで反  
映される社会制度を作ることだ。

どんな社会

を望む？

泣いている子どもがいたら声を掛ける、

困っているお年寄りがいたら

手を差し伸べるような、

温かい社会になればいい。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 9 安心して長生きできる社会

今後は健康であることが価値になる。「健康であれば保険料が安くなる」など、健康・医療情報を利用したサービスが普及し、医療費削減にもつながるエコシステムが形成される。

健康で病気になりにくい身体をつくる、運動してできるだけ医療のお世話にならないようにする、医療費をなるべく急カーブで上げないようにするという事前の策が大事だ。

健康である  
ことが  
価値になる

就労意欲のある高齢者、学習意欲のある高齢者が現役世代と変わらぬ環境を享受し、障壁なく活躍することのできる社会になってほしい。

元気な高齢者が趣味や娯楽をできる場を増やすだけでなく、元気な高齢者が介護が必要な高齢者を援助したり、話をしたりする場を作り、若い世代の負担を減らすことも大切。

寿命が長くなっても寝たきりでは意味がない。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 9 安心して長生きできる社会

地域医療連携ネットワークシステムを普及させ、迅速な患者情報の提供など救急医療現場で大いに活用していく必要がある。

最期まで自宅で過ごすのが当たり前になり、急変時は自動で主治医や救急に情報が行き、迅速に対応できる仕組みをつくってほしい。

県の南部と北部で医療連携することで、災害が起きた際にどちらかが医療体制を整備している状況を作り出せる。大地震発生時に有効な役割を果たし、他の地域のロールモデルになる。

先端医療技術  
分野の強みを  
活かす

医療技術による健康寿命の維持と、加齢により失われた心身機能を補う科学・工業技術の活用により1人でも多くの高齢者が社会を支えることで、持続可能な日本社会を実現できる。

先端医療技術分野の強みを活かし予防医療にさらに力を入れ、高齢者が知識や経験を若い世代に伝えながら仕事や活動を続けられる社会を実現できれば兵庫はますます魅力的になる。

高齢者を介護する家族が自宅や職場から対応することができて、介護を理由とした同居や離職、休職などがなくなっている未来を望む。

介護や病院にかかる費用、娯楽や旅行にかかる費用の支援、インターネットが苦手な人への無料授業など様々なサポートがあり、老後の自分の時間をより楽しんでいる未来になれば。

安心して  
老いて死ねる  
環境を望む

一人暮らしでもサポートを十分に受けられ、多額の費用を負担せずに済み、安心して老いて死ねる環境を望む。

3人の親を介護したが、病院や施設の渡り歩きが大変だった。

今や長寿が周囲から喜ばれない社会だ。ケアする介護者も尊ばれていない。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 9 安心して長生きできる社会

一人ひとりが好きな場所で、自立して健康に生きることができる社会が理想。最期を迎える時には、自分の好きな場所で死ぬことができればいい。

尊厳死の選択が自由になってほしい。

寿命が伸びるのはよいが、必要以上に生かされるのも大変だ。

一人ひとりが  
自分の最期を  
きちんと  
考える

死をタブー視せず、一人ひとりが自分の最期をきちんと考えるよう啓蒙することが大事。

去年母を看取ったが、私には最期を看取ってくれる子どもがない。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 9 安心して長生きできる社会

今住んでいる地域は、大きな病院からは遠いが、調子が悪い時に隣近所の人気が遣ってくれるという安心感がある。

家族だけで抱え込むのではなく、地域全体で支えるというメッセージが伝わるとよいと思う。

家族や地域から孤立して社会的に排除された人が増えることなく、周りには家族のようにサポートしてくれる人がいる社会になってほしい。

隣近所の人気が  
遣ってくれる  
安心感

地域住民全体を見守るネットワークがあった方が、安心して暮らせることにつながると思う。

人とつながる機会や新しい趣味に出会える環境があり、誰もが老後を楽しむことができる。

病気で苦しんでいる人や精神的に疲れている人の心の安定につながる場所がほしい。

支え合いは昭和の発想。行政は支え合いを過大に評価しがち。個人の自立が基本であるべき。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 9 安心して長生きできる社会

ケアマネジャーをしており、最期まで安心して暮らせることの難しさを毎日痛感している。

若い世代の利便性を求めるだけでなく、高齢者も安心して暮らせる社会になるようにしていくべきだ。

子どもを地域に預けたら勝手に育てくれる、かつ高齢者も子どもと関わることで生き生きできるような姿があったらいい。

どこにいても  
手厚い支援が  
受けられる

障害のある人が、両親が亡くなってからも、安心して暮らしていけるようにしてほしい。

年寄りが安らげる社会こそ最高の社会。誰でも必ずその時期を迎えるから。

介護、医療、子育て、災害など全般として、どこにいても手厚い支援が受けられる地域になればいい。

### Ⅲ 誰も取り残されない社会

#### 9 安心して長生きできる社会

住宅が全部商品になると、商品に住めない人がいっぱい出て社会が不安定になる。

独身なので、今後の人生に不安を感じる。

年金に頼れない。貯金がないと暮らせない。

農村部で歳を重ねるのは心配。公共交通機関が充実していない地域はどうなるのか。

このまま歳を重ねるのは  
心配

人を集めて住まわすことが必要になる。コンパクトシティ化を進める条例を制定すべき。

住む地域で医療費の所得制限が違うのはおかしい。

医療費、介護費用などより、もっと他に有効な税金の使い道があるのではないか。

日本は再び出自が問われる社会になりつつある。